

2019 年の内外ガス情勢の展望と課題

< 報告要旨 >

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
化石エネルギー・国際協力ユニット
石油グループ 兼 ガスグループマネージャー
研究主幹 森川 哲男

2019 年の LNG 需給・価格

1. 2019 年の世界の LNG 需要は 3 億 3,800 万トン (天然ガス需要の 12%)、供給能力は 3 億 4,400 万トンと見込まれる。供給能力が需要より多く増加し、年間ベースでは、需給は緩和する方向にある。
2. 2019 年の日本の LNG 平均輸入価格は 2018 年の \$10.5/MMBtu から、ほぼ横ばいの \$10.2~11.4/MMBtu で推移すると予測する。寒波等、気候要因にもよるが、北東アジア向けスポット LNG 価格は平均輸入価格を下回りやすい。

天然ガス・LNG 需給

3. 2018 年第 1~3 四半期の OECD 諸国+中国・インドの天然ガス需要は、前年同期比 96bcm (6.7%) 増の 1,527bcm であった。特に OECD 米州及び中国が需要増を牽引している。2019 年も米国及び中国を中心に堅調な需要増加が見込まれる。
4. 2018 年第 1~3 四半期の世界の LNG 需要は、前年同期比 1,310 万トン (6.2%) 増の 2 億 2,680 万トンと推定する。2019 年の LNG 需要は中国の増加が牽引し 2018 年比 2,600 万トン (8.3%) 増の 3 億 3,800 万トンに達すると予測する。
5. 液化プラント稼働状況を考慮した実質的な世界の LNG 供給能力は、2018 年末時点から 2,700 万トン増加し、2019 年末には 3 億 4,400 万トンに達すると見込まれる。

主要国動向

6. 米国の 2018 年第 1~3 四半期の天然ガス生産量は前年同期比 71bcm (11.8%) 増の 672bcm であった。2018 年第 3 四半期の純輸出量は 6bcm (LNG 換算 440 万トン) となっている。LNG 生産キャパシティは急拡大しており、2019 年末には 6,000 万トンを超える。

7. 中国の2018年第1～3四半期の天然ガス需要は前年同期比33bcm(19.5%)増の200bcm、LNG輸入量は前年同期比1,130万トン(44.2%)増の3,680万トンと急増している。2018年通年のLNG需要は2018年で5,300万トン、2019年は6,000万トンに達すると見込まれる。LNG需要が急増する一方、2018年の季節間LNG輸入量変動は2017年より縮小している。中国のLNG輸入者は冬季用の調達を早めており、今冬のスポットLNG価格ボラティリティは昨冬より抑えられると予測する。
8. 米中貿易戦争の影響で、中国の米国産LNG輸入量は10月にはゼロになった模様である。米国産LNG依存度が低いため、中国にとって代替供給源確保は比較的容易であるともみられる。一方、中国の輸入削減は、米国での新規LNGプロジェクト立ち上げへの影響が懸念される。
9. ロシアによる2018年前半の天然ガス輸出量は前年同期比13bcm(9.1%)増の152bcmであった。価格競争力の強さを背景に輸出量を伸ばしている。2019年には125bcmものパイプラインガス輸出キャパシティを追加予定であり、新規LNGプロジェクト開発も活発化している。
10. 欧州の2018年前半の天然ガス需要は前年同期比4bcm(1.5%)減の273bcm、LNG輸入量は同230万トン(10.2%)減の2,020万トンであった。域内生産量は減少しているが、需要は伸びず、他地域で売却出来なかったLNGが最後に振り向けられる仕向地先(Last Resort市場)となっている。

LNG市場流動性と仕向地条項

11. スポットLNG取引量は2017年に5,900万トン(全取引量の20%)に達したが、米国やカタールによるターム契約販売量の増加により2018年は減少することが見込まれる。JKMスワップ取引量増加等、市場流動性は向上しているが、指標価格形成には時間を要する。
12. 2017年の公正取引委員会報告書発表以降、日本向けの新規LNG契約における仕向地制限は緩和される傾向にあると見られる。2019年の日本・中国・韓国のターム契約量の15%程度が仕向地フリーと推測されている。今後は他のアジア諸国競争当局との連携が必要である。

国内ガス市場

13. 2018年前半の天然ガス需要は、前年同期比2.2bcm(3.7%)減の58bcmであった。原発再稼働や気温要因で発電用・都市ガス用とも減少した。
14. 市場自由化進展の下、2018年8月現在での新規参入者シェアは、都市ガス全体で13.4%、2017年4月に自由化された家庭用では3.9%となっている。従来の供給区域を越えた企業連携等により、国内ガス市場における新規参入者のシェアが2019年には14～15%程度となると予想する。 以上